

# 沙漠地での水有効活用緑化プロジェクトへの技術支援

団体名 **ひふみや〔自然農法〕**

主な活動地域 **中国内蒙古自治区通遼市庫倫旗額勤順の烏雲森林試験農場と周辺砂漠化地域**

## 目的

内モンゴルは、地球温暖化による異常気象、経済先進国（なかでも日本）の需要に応えるための経済活動によって、急速に沙漠化が進んでいる。同プロジェクトは、「砂漠化の防止と再生」「困窮農民の生産場所と収入の確保」「子どもたち、家族への啓発活動」を目的としており、この3つの目的を満足させるものとして「空中牧場」での緑化計画を推進する。

## 実施内容

モンゴリ（蒙古櫟）を主体に現地に自生している樹種の苗木を混合緑化のために育て、植林していく。この植林によって流砂現象を止めることができ、また、モンゴリの葉は馬の餌、伐採した枝や幹は田に漉きこんで肥料にし、残った枝は薪に、どんぐりは豚の餌に、下草は羊の餌に、と太陽エネルギーを立体的に使う「空中牧場」が出来上がる。その一方で、砂地の下40cmにビニールシートを敷き、地下水の使用量を削減して水田づくりを行う。肥料は家畜の糞と空中牧場の葉や枝の有機肥料を使い、不耕起栽培で生命力あふれる米を作る。沙漠地を草原に、ではなく、植林による緑化と農耕で回復させる技術を指導する。

## 選考委員のひとこと

ビニール水田は、既に実施事例もある。団体のメンバーには内モンゴルで暮らした経験を持つ人がいて、「大切なふるさとである内モンゴルから沙漠をなくしていこう」と活動している様子には頭が下がる。

TOTO 総務部 Kさん記

## ボランティアに参加しよう！

- ★苗作りの準備・ビニール不耕起水田の候補地探し 2009年10月～11月
- ★苗作り・水田開墾・田づくり 2010年 4月
- ★沙漠緑化研修セミナー実施 2010年4月以降
- ★ビニール水田管理・苗木育樹管理指導 2010年 7月



少しの地下水で成長し、利用価値は高いモンゴリ



見渡す限りの砂漠に育てた苗を植樹していく



中国内モン古ですすでに行われているビニール水田

